

2023年1月15日

2022年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

(*本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます)

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	文学部教授
	氏名	大橋 毅彦
海外客員 教員	所属・職	ジャワハルラール・ネルー大学 教授
	氏名	George Pullattu Abraham
招聘目的	①. 授業担当及び研究 2. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2022年9月16日 ~2023年1月15日	
成果報告 以下の内容を記載して下さい。	<p>今度の客員教授任期中、「日本文学作品研究II 3」と「文学作品対照研究」という二つの履修科目を担当し、予想通りの成果を成し遂げたと思います。以下、その詳細を簡潔に記述いたします。</p> <p>授業科目名(A)：日本文学作品研究II 3</p> <p>授業担当の成果</p> <p>宮沢賢治の作品とその思想の普遍性を、詩「雨ニモマケズ」、短編「よだかの星」「銀河鉄道の夜」「グスコブドリの伝記」「ビジテリアン大祭」「虔十公園林」及び「注文の多い料理店」という七編の代表作品を中心にPPTを利用して講義を行いました。追加資料・関連資料・研究論文などはプリント又はEメールで配布しました。本授業科目の目的は学習者に宮沢賢治の作品を精読してもらい、それら作品に顕現されている賢治の思想・世界観を検討し理解してもらうことにありましたが、学生たちの授業中の積極的な参加、七回にわたって書いてもらった感想文の内容、そして、最終レポートの充実した記述などから予想以上の授業成果が得られたと判断できます。中には「賢治作品をはじめて読んで驚きました」「賢治作品を以前読んだことがあるが、深い哲学が潜んでいることに気づいたのは先生の講義を聞いてからだ」「賢治作品をこれからも研究してみたいな」などと感想文に記述した学生も十数人いました。学部の48名の正規学生がこの授業を受講しました。</p> <p>授業科目名(B)：文学作品対照研究</p> <p>授業担当の成果</p> <p>日本の文学作品に潜んでいる日本の社会、文化及び思想の有様を把握し、自ら論理的に解釈ができるとともに、それらの文学作品をその英訳、またはマラヤーラム語訳と対照的に比較して、原文に描かれている日本の社会、文化、言葉づかいなどはどう訳されているかを調べてみたうえで、翻訳論を兼ねて、文学作品の正しい翻訳とはいかに重要で、いかに難しい業であるかを学習者に気づいてもらうことが本履修科目の目的でした。対象作品として石川啄木の『一握の砂』、芥川龍之介の「羅生門」「鼻」、宮沢賢治の「虔十公園林」および谷崎潤一郎の「刺青」を取り上げ、PPTを使って講義をしました。「刺青」を除いてすべての作品の英訳とマラヤーラム語訳を原文との比較のために利用しました。「刺青」の場合は、英訳だけを対象にしました。学部の32名の学生がこのコースを受講しましたが、皆が非常に興味を持って積極的に授業に参加し、感想文執筆をはじめ義務つけられた授業タスクを勤勉にやりました。「文学作品の外国語訳はこんなに難しいと思わなかった」「この履修科目を選択してよかったな」などと感想文に記した学生も大勢いました。全体的に言うと、予想以外の成果だったと思われます。</p>	
1. 授業担当及び研究		
(1) 授業科目名		
(2) 授業担当の成果		
(3) 研究の内容		
(4) 研究の成果		
2. 共同研究		
(1) 共同研究の内容		
(2) 共同研究の成果		
3. 特別枠		
(1) 活動内容		
(2) 成果		

	<p>研究の内容：石川啄木の『悲しき玩具』（194首の短歌）マラヤーラム語訳</p> <p>研究の成果：マラヤーラム語訳が一通り終わり、編集作業が残っています。</p> <p>2012年に石川啄木の『一握の砂』の551首の短歌をマラヤーラム語に訳して、出版した経験もありましたので、今回の『悲しき玩具』の翻訳は思ったよりスムーズに行えました。もちろん、詩歌だから難解のところがたくさんありましたが、パートナー先生の大橋毅彦先生は、ご自分のご多忙な日課のうち、何度も時間を割いて、研究相談並びに授業相談にのってくださいました。それに、啄木専門家である岩手大学の名誉教授望月芳次先生をはじめ、日本国内の何人かの啄木専門家とE-メール、Zoomミーティングなどを通して相談することができ、194首の短歌のマラヤーラム語訳を完成しました。帰国してからすぐ、このマラヤーラム語訳の出版へ向けての手続きや行動を始める予定でございます。とても、遣り甲斐を感じた4か月間でした。ありがとうございました。</p>
--	---